

§ 分娩周辺をめぐって prospective, retrospective survey

横浜市大産婦人科

水口弘司

当施設における昭和57年度の研究は、昭和56年度の報告書に従い、Prospective survey 並びに、retrospective survey を中心に行った。

1. Prospective survey

当科における今年度の全分娩数は 599例のうち双胎が6例あり、全出産児数は 605例であった。上記のうち周産期死亡が13例-(10例は7ヶ月以下の分娩で、3例は9～10ヶ月の分娩例)-あり、他に母体死亡、往所不定等35例の調査不能例があり、最終的に調査対象総数は 557例となった。

方法としては、郵便によるアンケート調査で、生後3～4ヶ月児、6～7ヶ月児、及び11～12ヶ月児に対して行った。現在のところ3～4ヶ月児は8月分娩例まで、6～7ヶ月児は5月分娩例まで、11～12ヶ月児に対しては、アンケート回収を行っているところである。

結果であるが、まずアンケート調査に対する解答率は、3～4ヶ月児の調査で70.3%、6～7ヶ月児の調査では71.4%であった。解答のあったもののうち児死亡は1例で、病名はサイトメガロウィルス肺炎とのことであった。その他の児では、下に示す症例以外、比較的順調な発育を遂げている。

【症例】

○田○生 男 S57年2月19生

母：26才、2回経産(s51. 8. 2820gr♂、s54. 1. 2200gr♀)前2回の妊娠中も喫煙していたが、今妊娠中も全妊娠経過を通じて1日20本以上の喫煙をしていた。某医にて妊娠経過を診ていたが、極度のIUGRが疑われるため妊娠10ヶ月に入り当科転院となった。患児は、妊娠37週6日でfetal distress、IUGRの診断のもとに帝王切開により出生、生下児体重1210gr、Apgar-Score 1分后3点、5分后6点で、その後小児科転科となり約2ヶ月后退院となっている。自宅にての発育は順調であったが、生後3ヶ月22日目に、convulsion及びcyanosis出現、当院小児科に入院となり、諸検査施行后特に異常所見なく、(脳波も異常なし)2週間で退院、診断はてんかんの疑いで、現在抗けいれん剤服用にて経過観察を行っているが、その後はそういったEpisodeはない。この症例は、SIDS near miss例の可能性もあると思われる。

以上でprospective surveyの中間報告とするが、解答のない症例に異常が含まれている可能性も高く、今後、出来得る限り、再調査等追及していく予定である。

2. retrospective survey

この調査は、過去3年間にわたり、当科において出生した児の中から、次に掲げるhigh

riskを持った 300例の児を抽出し、アンケート調査用紙の送付により、行った。

- (1) 20才以下の若年産婦よりの児
- (2) 3回経産以上の多産婦よりの児
- (3) 双胎児
- (4) 37週未満の早産児
- (5) 2500gr以下の低出生体重児
- (6) 骨盤位分娩の児
- (7) 帝王切開による児
- (8) Apgar Score 6点以下の児

調査結果については、現在のところ、回収率が悪く、さらにポツリポツリではあるが、現在なお回収途上ということもあり、次回最終報告にゆずることとするが、今后期間を過去5年にし、さらに分娩様式、分娩時間等の要素を加味し、対象を700例追加 合計1000例の調査を行いたいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



当施設における昭和 57 年度の研究は、昭和 56 年度の報告書に従い、Prospective survey 並びに、retrospective survey を中心に行った。

1. Prospective survey

当科における今年度の全分娩数は 599 例のうち双胎が 6 例あり、全出産児数は 605 例であった。上記のうち周産期死亡が 13 例-(10 例は 7 ヶ月以下の分娩で、3 例は 9~10 ヶ月の分娩例-あり、他に母体死亡、往所不定等 35 例の調査不能例があり、最終的に調査対象総数は 557 例となった。

方法としては、郵便によるアンケート調査で、生後 3~4 ヶ月児、6~7 ヶ月児、及び 11~12 ヶ月児に対して行った。現在のところ 3~4 ヶ月児は 8 月分娩例まで、6~7 ヶ月児は 5 月分娩例までで、11~12 ヶ月児に対しては、アンケート回収を行っているところである。

結果であるが、まずアンケート調査に対する解答率は、3~4 ヶ月児の調査で 70.3%、6~7 ヶ月児の調査では 71.4%であった。解答のあったもののうち児死亡は 1 例で、病名はサイトメガロウイルス肺炎とのことであった。その他の児では、下に示す症例以外、比較的順調な発育を遂げている。